

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470600418		
法人名	伊勢温泉観光株式会社		
事業所名	グループホーム へのみの家		
所在地	三重県津市新家町1488		
自己評価作成日	令和元年10月26日	評価結果市町提出日	令和2年1月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2470600418-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和元年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、自然豊かな田園風景の広がる高台に立地、隣には光明寺というお寺があり、毎日の散歩コースにさせてもらっています。春には見事な桜が咲き、6月にはあじさいと季節を感じていただきながら散歩を楽しんでもらっています。また、お寺やお墓参りに来られる地域の方々にも優しく声を掛けていただき、時にはお花を頂いたり地域の方々との良い関係が築けています。フロア内は毎月の壁画を利用者様と一緒に作り、出来上がった作品を飾ったり、介護グループ全体で行う文化祭で展示して、他部署やご家族様に見て頂く機会など、季節を感じていただき温かみのある落ち着いた居場所づくりを心掛けています。また、季節ごとの行事でのお花見やいちご狩りでは、職員の手作り弁当を持って出掛けるなど、施設全体での合同行事も沢山あり、利用者様に楽しんで頂けるよう皆で頑張っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隣のお寺、ホームの周辺は竹林や多くの樹木があり、自然の季節感がある環境になっている。家族からは、このホームは家庭的な雰囲気があり職員はいつも笑顔で対応してくれ、利用者さんを良く理解して安心感があると喜びの声がある。職員は、常に本人に寄り添い希望に添えるように出来る限りの支援をしてサービスの質の向上に向けて日々努力をしている。このホームが、心の落ち着く場所、自分の親を入居させたいと思う気持ち、利用者・家族からここが最期の場所と言ってもらえるホームを作り上げるように努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	和願愛語を基本に、実践理念として利用者本位と掲げているが、ある程度実践出来てきたのではないかと感じており、現状をベースに新たな理念を検討しているが、中々決まらずに模索している最中です。	理念についてその場その場で気が付いた事は毎月の会議で振り返り、いつも利用者とお互い笑顔で温かくやさしい言葉で接すればきっと笑顔が返ってくると思っている。また、理念が来訪する方や職員が良く気付く様に、表現方法を作り直し玄関に掲示して実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等で地域と繋がりを持ち、昨年の停電の時には、お寺の総代が付近の木を伐採して下さったり、また時にはお寺に繋がる竹を職員が伐採したり、お互いに協力して関係を築いていこうとしている。また最寄りの認知症の住民への気配りと、夜間に出歩いている時は、連絡するよう連携を取っている。	地域住民がお墓参りの帰りに寄ってくれたり、果物・野菜・花を差し入れてくれる。散歩時には出会った住民と挨拶・掛けをしたり、中学生の職場体験の来訪があったり地域の方へ駐車場を提供もしている。お餅を作った時は近所に配り、利用者もいきいきサロン・老人会に参加しており、日頃から交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の意見交換をしたり、地域にお住まいの認知症の方への対応や、夜間出歩いていた場合などの声掛けのお願いをされたり、出来る限り地域の貢献に役立つよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、近況の報告やホームでのイベントに参加して頂き、体験して頂いている。また桃園地区の「元きつず」という小学生と担任の方に来訪して頂き、交流をや認知症の理解を深める活動を行い、意見交換しながら、サービスの向上に活かしている。	自治会長・民生委員・地域包括センター・家族が参加し、入居者状況・行事報告を行ない、奇数月毎に年6回、開催している。	運営推進会議は事業所の理解と支援を得る為の機会であり、身近な事・相談・住民の協力・困り事等、知見者・見識者等の参加を促し事業所内外の多数広いメンバーで、意見交換の場とし参加者のいろんな意見の入った会議録の作成を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	諸々の手続きや、時には介護保険課の担当の方への質問等を電話にて連絡したり、集団指導などで会った際には声を掛け少しでも密になれるよう努めている。	普段は介護の書類届けや相談に行っているが、市からは生活保護者の受け入れ要請があったり、介護事業所の集団指導等に参加し協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置して一年半が過ぎましたが、意識していない表現や言動がまだあると感じており、再度身体拘束と虐待防止について定期研修を実施しながら理解を深めている。	現在2名の身体拘束を実施しているが、家族に同意を得て身体拘束委員会で拘束をしない解除の検討をしている。ケアマネジャーが拘束・虐待の廃止・言葉の暴力の資料を揃えて年4回、テーマを設け職員会議で取り上げ、拘束をしないケアに取り組むように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に4度の内部研修を実施。言葉での虐待にも気を付け、気になる言動がある時は、その都度毎月の会議で議題として上げたり、紙面で伝えたりして虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームでも制度を利用している方がおり、職員も年々理解が深まってきているが、まだまだ理解が足りない所は、内部研修等で再度理解を深めている最中です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項説明書は読み上げ、質疑応答している。また、変更がある際は紙面やその場で説明して納得頂いた上で、署名押印をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口も設置しているが、利用者様やご家族様が運営に関する意見も無い状態で、会話の中から得た要望等を少しでも運営に反映して行く方向で検討しております。	利用者からは夜勤時・入浴時の会話から聞き取り、家族からは携帯電話のラインを利用したり、毎月送る新聞や面会時に聞いたりしている。出された意見はカルテに記入し職員間で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談での聴き取りや、毎月の職員会議での意見交換等はしており、その中で出た会話など少しでも反映出来る方向で前向きに検討したり、代表者に伝えたりしている。	その都度、気になった事・改善事項等を直接聞く機会が多いが、月1回の職員会議、年1回の個人面談での意見提起もある。出された意見は管理者で検討し反映させている。最近では職員の詰め所の環境改善の提案が出ており実行している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	少しでも働き易い環境になる努力をし、管理者は代表者に個人面談の結果を報告等して、給料水準等に反映している。また年に2回他部署との合同イベントを実施して、日々のやりがいに繋がるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は毎月実施。外部研修は年に4～5回程度行っている。また、資格取得にかかる費用を会社が負担するなどの取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	一職員が交流する時間は中々無いが、他施設を見学した際や、特別養護老人ホームの申込みに行った際に、意見交換をしてサービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申込み前に利用者の話をよく聴き、要望に応えるようにしている。不安が解消されるまで何度も話し合いをし、信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望を傾聴し、不安が解消されるまで、何度も話し合いをし、より良い信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所サービスに限らず、本人・家族の要望を傾聴し、ニーズに合わせた対応に心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日々介護する中で、同じ時間を共有し、お互いを知ることにより、より良い関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との話をする時間を持つことにより、家族が本人に抱く思いを共感できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との思い出・場所が今の生活を支え、安心して暮らしていける。その記憶の保持に努め、充実した生活を送って頂くけるよう支援している。	電話をかけたたり年賀状を出す方、家族の協力で実家に帰ったりお墓参り・法事、同窓会・理容室へ出掛けたりしている。散歩時は隣のお寺にお墓参りに来る住民と声掛け挨拶を交わしている。家族の協力を得ながら馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一つの作品を作る上で、出来る人・出来ない人が居るが、お互いを助け合い、協力する事で、利用者同士が関わり合いを持ち、支え合い、安心して生活が送れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院・施設等退去後も、家族の意向を尊重しながら関わりを持ち、相談や支援に応えるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の訴えを傾聴し、希望に添うように支援している。又本人から聞けない等の時は、普段の生活状況を観察し、本人の立場になって考え皆で相談し、家族の了承の元、支援している。	日常的な利用者との会話・傾聴・表情・態度から察し、時に夜勤時や入浴時の1対1の時に希望・意向・以前の暮らし方等が聞かれる。聞き取った意向・希望はケアプランに活かしたり、カルテに記入し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所に当たり、本人や家族と十分に話し合い、理解を深め、より良い信頼関係を築き、把握するように心がけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々接している中で、体調の変化や心の変化を見過ごしたり、見落とししたりしないように気を付けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各ユニットでの職員会議において、職員、医師や家族の意向・本人の希望に沿った介護計画を作成するように努めている。	面会時に家族と話し合い意向等を聞き取り、モニタリングを3ヶ月毎に職員が行ない評価している。医師の意見や、家族の意向に沿った介護計画を全職員で毎月、職員会議を行ない3ヶ月毎に見直しをして現状に添った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきをもれなく記録し、職員間で情報を共有しながら実践する。介護計画の更新時モニタリングをし、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況によっては直ぐに対応出来ない時もあるが、可能な限り対応するように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に数回ではあるが、地域の学校やボランティアに協力をしてもらい歌や紙芝居を見たりして、施設での生活をより楽しんでもらえる様にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族からの希望をもとに、協力医の往診や、かかりつけ医の受診等柔軟に対応している。また緊急の場合は家族の意向に沿って対応している。	かかりつけ医は16名、協力医は11名であるが、協力医からは月2回の訪問診療がある。受診は基本的には家族に依頼している。また、歯科衛生士が週1回口腔ケアに来訪している。受診病院は24時間対応が無く現在救急コールセンターに連絡し対応しているが今後、訪問看護ステーションとの契約を考えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設には看護職がいないため、利用者の急変時は、かかりつけ医に連絡・相談し対応している。深夜等連絡が取れない時は、介護職の判断で、救急搬送等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、直ぐに病院関係者との情報交換を行い、利用者が安心して治療を受ける事が出来るように努めている。定期的に面会に行き、利用者に安心してもらえる様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の変化に伴い、等施設で出来る事を十分に説明しながら、家族とよく話し合いながら決めている。	入居時に家族からは看取りの希望はあるが、事業所としては医療体制が整っていないので看取りは難しいと話している。その時期には家族と相談し対応策を考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所全体で救急対応の研修を行い、職員全員が利用者の急変時や事故発生時の初期対応が出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害別のマニュアルに沿って、臨機応変に対応できるよう周知徹底に努めており、非常食等も少ないながら備蓄管理している。また、地域の住民へのお願いや、消防団に声掛けなどしております。	火災想定で避難・消火・通報訓練を、避難場所を駐車場と決め防火管理者の指示で年2回している。備蓄(非常用食品・水・缶詰等)・非常用備品は(ヘルメット・利用者の防災頭巾に非常用品を入れ、LED電灯・ランタン)が用意してある。	より安全な避難に繋げる為、消防署の立ち合いで2階、3階からの避難方法、地域の方にも協力要請を行なう等、マニュアルを使用した各災害別の訓練を実施する事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の人格を尊重し、誇りを損なわないよう気を付けながら、言葉かけを実践している。又プライバシーを損なわないよう、周りに気遣い介助を行うように指導し実践している。	人格を尊重し誇りを損なわないように、また、職員の都合で支援をしない対応に気を付け、笑顔でやさしい言葉づかいで接している。トイレ・入浴・着替え時等、ドアの開閉に注意を払い同性介助にも心掛けする対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の係わりの中で、本人の思いを汲み取りその思い、希望に添った支援が出来るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の過去の生活リズムを変えることなく、一人ひとりのペースに合わせた支援に心がけ、毎日楽しく過ごして頂けるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や好みに合わせた服装が出来るようにお手伝いしている。又外出先に合をせて服装を変え、楽しんで頂ける様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	目で見て美味しそうと思って頂けるような食事作り心がけ、食事の時間が楽しいものと思って頂ける様にしている。誕生会等の行事では、希望を聞き、希望に添った食事が提供できるようにしている。	食材センターのメニューに合わせて食材を取り寄せ、職員で調理しているので家庭の味が楽しめる。トロミ食・ペースト状食の方には食材の内容をきちんと説明し、誕生日には希望に添った食事を用意し家族と一緒に楽しんでいる。お好み焼き・たこ焼き・ホットケーキ等を利用者と作ったり、外出時は弁当等を持参し楽しい食事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力医と相談しながら、食事量・水分量を決め記録し、一日を通して摂取できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前の口腔ケアの声掛けを行い、介助している。拒否があり介助出来ない場合には、定期的に歯科の往診で口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を決め排泄の声掛けをしている。排泄パターンを把握し、トイレへの声掛け・誘導を行い、排泄を促している。	定期的に(起床・食事前後・就寝前等)声掛けし、トイレに誘導している。排泄チェック表を利用し排泄パターンを掴み、その都度その人の状態を見て声掛けしトイレでの排泄や自立に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録をとり、個々の排便パターンを把握し、定期的な声掛けを行い排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望する時間に入浴ができれば理想ではあるが、職員不足の為、職員の都合に合わせた曜日・時間帯になってしまっているのが現状である。	週3回、午後より入浴支援があるが入浴拒否の方は無理強いしないで、時間・日を変えて入浴をしている。入浴中は昔話等をして、ゆったりと入浴出来る時間を個々の対応で考え支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	外出後や昼食後等、少しの時間でもいいので休んで頂くように声かけし、体を休めて頂いている。消灯時間は決まっているが、今までの生活リズムを変えないようにし、個別の対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬の目的や副作用を把握し、医師や薬剤師の指導の元、確実な服薬確認をしている。又、症状の変化の確認をし異常があれば、すぐに医師に連絡、相談し、指示を仰いで居る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	折り紙や塗り絵など、その人の得意とするものを生かし、季節感のある作品を作ることで生きがいを見つけて頂くように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近場であれば職員の余裕のある限り希望に添える様に努めている。又普段なかなか行けない所は、家族様に伝え可能なら出かけて頂けるよう支援している。	外出計画に季節の花見を取り入れ(梅・さくら・紫陽花・藤・イチゴ狩り等)また、法人の夏祭り・文化祭に参加したり、外食に(回転寿司・喫茶店)に出掛けている。家族の協力で実家に帰ったり病院の受診があり、また、玄関にある椅子に座り日光浴をしたり農園で花・野菜を作り収穫して外気浴を楽しむように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時、本人の希望のある時には店に立ち寄り品物を選び、お買い物をするにはあるが、お金を使う事の大切さを忘れていないかも、出来る人には自身で払って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話を掛けお話しして頂いている。年始には年賀状を書き、元気である事を伝えられるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな音や刺激のある色を避け、季節感が味わえるような作品を作り、心地よく過ごせるように工夫している。	居室・居間等、共有空間に材木を多く使い家庭のような温かさが感じる作りとなっている。利用者で作った季節感を取り入れた作品が掲示しており、常に温度・湿度に気を配り感染予防にも取り組んでいる。利用者は畳スペース、食堂の椅子に座り新聞、テレビを見て一日をゆったりと過ごす空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの片隅にある畳スペースや、壁際に置いてある椅子に座り、ゆっくりと新聞を読んだりテレビを観れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染のある小物類を置き、落ち着いた中で生活が送れるように支援している。	各居室には、ベッド・大きな棚台・洗面台・トイレが備えられており、利用者からは喜ばれている。テレビ・筆筒椅子机、家族の写真が持ち込まれ、掃除が行き届いておりすっきりとした居心地良く過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりをつけ転倒しないよう歩ける工夫をしている。又衣装棚には扉は無く、自分で洋服を掛けたり片付けが出来るようにしている。		